

先端科学技術研究科 修士論文要旨

所属研究室 (主指導教員)	サイバネティクス・リアリティ工学 (清川 清 (教授))		
学籍番号	1911214	提出日	令和 3年 1月 25日
学生氏名	東 健太		
論文題目	Reducing Alienation in Multi-person Conversations by Manipulating Head Pose and Gaze Direction 頭部姿勢と視線方向の操作による多人数会話における疎外感の軽減		
要旨			
対人コミュニケーションは日常生活で重要であり、会話に参加する人全員が満足できることが望ましい。しかし実際には、自分だけが話についていけず疎外感を感じてしまう場合や、会話相手との非言語的な表出がうまく共有できていない場合などがあり、会話参加者の全員が会話に満足できるとは限らない。本研究では、会話満足度に影響を与えるとされる様々な要因のうち、顔の向きと視線に着目した。3者間会話で、自分だけが会話に入れない状態で、残りの2人がこちらを向いているように視覚情報を変調させることで、疎外感を軽減させ、会話満足度を向上させることを試みた。VR環境で実施した実験では、実環境で収録した成人男性2人による会話を2人のアバターで再現し、被験者はそれをHMD越しに視聴した。結果として、アバターの顔や視線を被験者に向けるよう視覚的に変調することで、被験者がより会話に参加していると感じさせられた。 しかし、会話の楽しさなどの会話満足度の要因となる要素を向上させることはできなかった。			